

基本方針9 子どもたちの豊かな心をはぐくみます

重点項目29 子どもの成長過程に応じた教育の充実

【目標】

- ・「全国学力・学習状況調査」における以下の項目を全国平均以上にする。
  - ①将来の夢や目標を持っていますか
  - ②自分には良いところがあると思いますか
  - ③難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか
- ・生徒の卒業後の進路を確定し、府立高校(全日制)卒業生における「一時的な仕事に就いた者」の数値を「0」にする。
- ・府立高校(全日制)におけるインターンシップ実施率を全国平均以上にする。

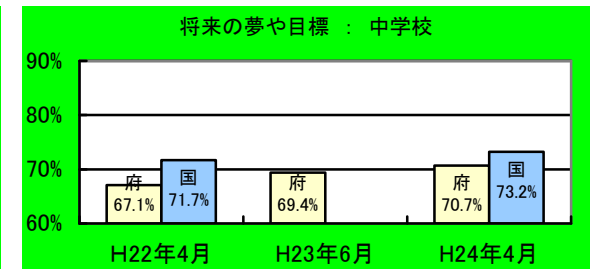
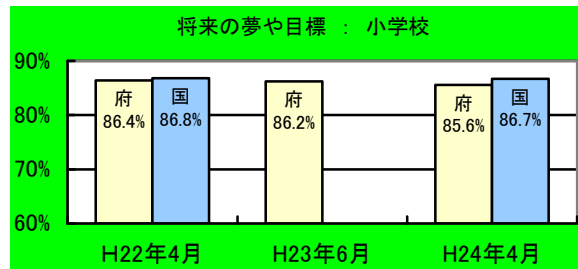
【成果（平成23年度末時点）】

○ 『夢や志をはぐくむ教育』を活用した実践を進めることで、全国との差はあるものの、特に中学校において肯定的な回答をしている生徒が増えてきている。

① 将来の夢や目標を持っていますか

	H22年4月	H23年6月	H24年4月
小学校 (全国)	86.4% (86.8%)	86.2% ( — )	85.6% (86.7%)
中学校 (全国)	67.1% (71.7%)	69.4% ( — )	70.7% (73.2%)

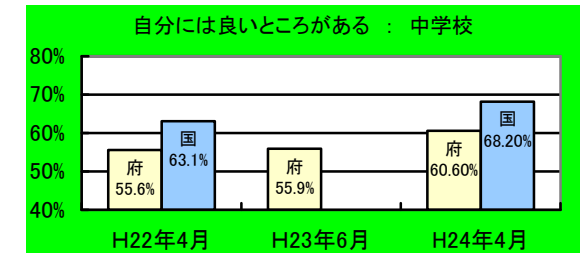
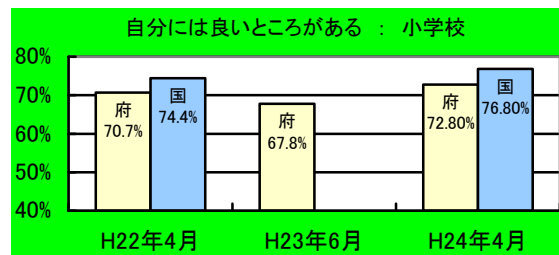
H22・H24 国調査(政令市を含む抽出調査)  
H23 府調査(政令市を除く府域41市町村での悉皆調査)



② 自分には良いところがあると思いますか

	H22年4月	H23年6月	H24年4月
小学校 (全国)	70.7% (74.4%)	67.8% ( — )	72.8% (76.8%)
中学校 (全国)	55.6% (63.1%)	55.9% ( — )	60.6% (68.2%)

H22・H24 国調査(政令市を含む抽出調査)  
H23 府調査(政令市を除く府域41市町村での悉皆調査)



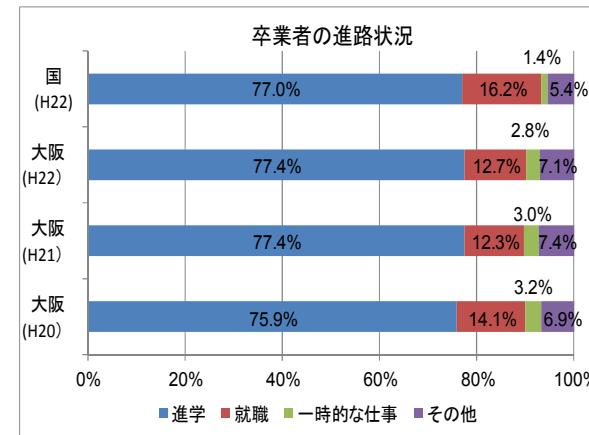
- 府作成の「夢や志をはぐくむ教育」(※)の指導資料集の活用状況は、平成22年度より上昇している  
(小学校：H22 97.4% ⇒ H23 99.0%、中学校：H22 91.4% ⇒ H23 94.8%)

※夢や志をはぐくむ教育：社会人として必要な規律・規範を身に付け、よりよい社会を創っていく「志」を持つとともに、充実した人生を送るために必要な「夢」をはぐくむことを目的としている。

- 府立高校（全日制）卒業生における「一時的な仕事に就いた者」の数値は、この間、横ばいではあるが、全国に比べると高い値で推移している。

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
府立高校 (全国)	3.2% (1.3%)	3.0% (1.5%)	2.8% (1.4%)	2.8% (—)

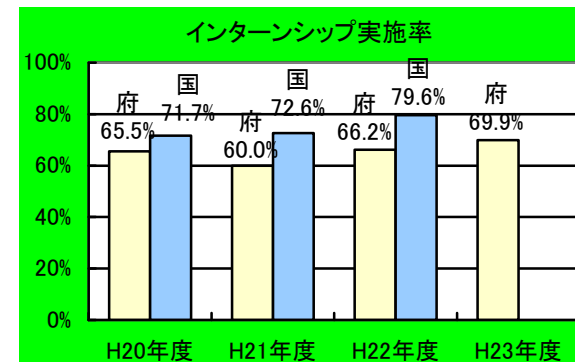
※全国については、全日制・定時制の参考値  
※文部科学省「学校基本調査」



- 府立高校（全日制）におけるインターンシップ実施率は、平成22年度は前年度に比べ上昇したが、依然として全国平均より下回っている。

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
府立高校 (全国)	65.5% (71.7%)	60.0% (72.6%)	66.2% (79.6%)	69.9% (調査中)

※文部科学省「職場体験・インターンシップの実施状況等調査」



【課題及び対応】

- 自分に自信をもてない子どもが、小学校で約3割、中学校では約4割いることから、「夢や志をはぐくむ教育」に関する資料のさらなる有効活用を図り、各学校の実態に応じた子どもたちの豊かな心をはぐくむための取組みの継続が必要である。
- 大阪府キャリア教育プログラム（平成23年3月策定）を踏まえ、各中学校区が地域の実情に応じた一貫したキャリア教育全体指導計画を作成し、子どもがいきいきと学ぶことができる環境をつくり、様々な体験を主体的に行うことができるよう、府内全域にキャリア教育の取組みを普及させることが必要である。
- また、就職内定率の上昇や進路未定者の減少を図るため、「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業に取り組み、学校の生徒のニーズに応じたキャリア教育・職業教育プログラムを実践し、府内の全ての高校にキャリア教育の充実を図ることが必要である。

【主な取組み（平成23年度）】

項目		目標 (目標年次)	H20年度実績	H23年度実績	進捗 状況	H23年度実施事業		
① 志や夢 をはぐく む取組み の推進	「夢や志をはぐくむ教育」の展開	全小・中学校 (H23年度)	—	冊子活用状況 小：615校 (99.0%) 中：276校 (94.8%)	◎	(継) 志や夢をはぐくむ教育推進事業	平成22年度の中学校16校に続き、平成23年度も、小学校8校を実践モデル校に指定し、市の研修会や校内研修を開催することで、実践を広め、配付した冊子の普及を図った。 小中学校の授業に企業の方を講師として招聘する仕組みをつくり、小中学校のべ28校で地球環境やキャリアデザイン等の内容で授業を実施した。	⑳ — ㉑ 1,523 千円【単】 (大阪教育 ゆめ基金)
	「志」学の展開	全府立高校 (H23年度)	—	全府立高校において実施	◎	(新) 企業との連携による出前授業の実施	財団法人関西生産性本部の協力により企業で活躍している方を講師として派遣した。 ・9校に対し19名を派遣	⑳ —
② 道徳教育の充実	実践研究の成果の普及	全小・中・高校 (H22年度)	—	小：100% 中：100% 高：100%	◎	実践研究の成果の普及	府道徳教育推進教師連絡協議会を開催し、小学校2校と中学校1校の取組みの発表や学識経験者の講演等を通じて、実践研究の成果を普及した。	⑳ — ㉑ —
	道徳教育推進教師対象の研修の開催	年間3回実施 (H21年度)	—	3回	◎	(継) 道徳教育推進教師連絡協議会の開催	道徳教育の課題と改善の方向性について理解を深め、道徳教育の充実を図るため、道徳教育推進教師連絡協議会を年間3回開催した(のべ1,583名参加)。また担当指導主事連絡会を年間3回開催した(のべ97名参加)。	⑳ — ㉑ —

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H23 年度実績	進捗 状況	H23 年度実施事業	
③ キャリア教育の推進	キャリア教育推進地域におけるカリキュラム開発と研究成果の普及	全小・中学校への普及 (H22年度)	—	フォーラムの実施	○	(継) 児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育プログラムの調査	②③ 771千円【公】 ② 1,622千円【公】 将来の社会的・職業的自立に向けて必要な能力等を育てるための、発達段階に応じた体系的、一貫的なキャリア教育について、「大阪府キャリア教育プログラム」の周知・普及に努めるとともに、調査研究した実践内容の普及を図るために、フォーラムを実施した。 フォーラム参加者数：467名
				キャリア教育サポーター等を10中学校区小学校22校中学校10校に派遣 「サポートブック」配付		(新) キャリア教育プログラム実践事業	「大阪府キャリア教育プログラム」を具体的かつ効果的に実践しようとする中学校区に対して、キャリア教育コーディネーター等の人材を派遣し、その研究や実践の成果を「キャリア教育の進め方サポートブック」としてまとめ、府内全域に情報発信を行った。
	キャリア教育推進研究校を指定し、その成果を普及	全府立高校に普及 (H21年度)	—	府立高校58校を指定	○	(新) 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業	②③ 138,000千円【単】 高校生の就職内定率の上昇、進路未定者の減少を図るため、校長マネジメントにより専門学校や外部人材と連携して、各学校の生徒のニーズに応じたキャリア教育・職業教育プログラムに取り組んだ。
④ 専修学校との連携	専修学校との教育課程上の連携の拡大	府立高校20校 (H25年度)	7校 (連携校(専修学校)18校)	7校 (連携校(専修学校)23校)	○	(継) 専修学校と教育課程上の連携に関する調査の実施	②③ ② 府立高校では体験できない学習機会を増やすことにより、学習意欲を高めることを目的に、専修学校との連携を進めるため、府立高校に対して、専修学校との教育課程上の連携状況について調査した。

基本方針9 子どもたちの豊かな心をはぐくみます

重点項目30 人権教育、障がい者理解教育、国際理解教育、福祉教育の推進

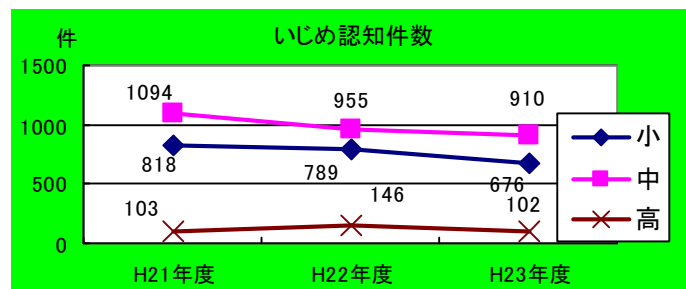
【目標】

- ・人権課題についての理解を深めるとともに自尊感情を高める取組みを通して、自他の人権を守ろうとする意識・態度や、文化・習慣等の違いを尊重する精神をはぐくみ、人権侵害事象及びいじめ等問題行動を減少させる。
- ・障がいのある子どもと障がいのない子どもが「ともに学び、ともに育つ」ことができるよう、小・中・高校で障がい者理解教育を推進する。
- ・在日外国人児童生徒が自らの誇りや自覚を高め、本名を使用できるような環境の醸成に努める等、指導を一層工夫・改善する。
- ・帰国・渡日児童生徒に対する就学支援及び学習・進路支援等を一層充実させる。
- ・社会の中で、人々が支え合い、生きる喜びを味わうことができるよう、福祉教育を推進する。高校においては、福祉施設での実習等、体験学習の機会を拡充する。

【成果（平成23年度末時点）】

〔人権教育〕

- 小・中・高校において、すべての学校で人権教育推進計画を作成して取組みを進めた。（人権教育推進計画を作成した学校の割合  
平成22年度 小学校 100%、中学校 100%、高等学校 100%）
- いじめの認知件数は、小中学校、高校ともに減少した。（いじめ認知件数 平成20年度 2,330件→平成23年度 1,688件）
- 人権教育教材集・資料（CD版）の周知と普及のための研修を実施し、活用の促進を図った。



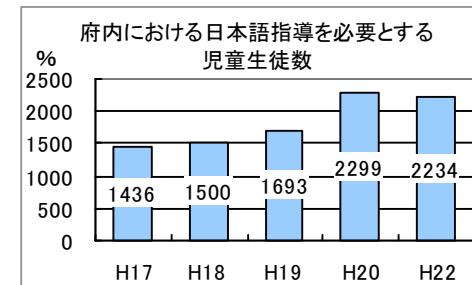
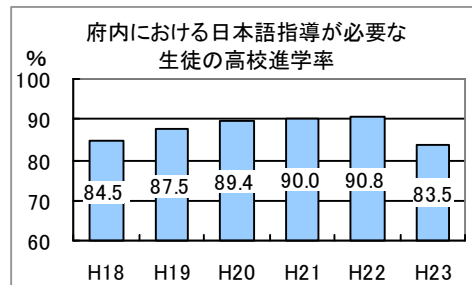
※文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

〔障がい者理解教育〕

- 障がい者理解教育の推進に向け、障がい者理解教育研修会や市町村教育委員会に対する指導・助言事項において、改訂した指導資料集の活用の促進に努めた。

〔国際理解教育〕

- 在日外国人教育のための資料集「違いを認め合い 共に生きるために」(DVD 教材)の活用の促進を図った。(活用率：平成 23 年度 小学校 52.3%、中学校 47.8%)
- 日本語指導が必要な生徒の高校進学率が低下した。(平成 22 年度 90.8%→平成 23 年度 83.5%)
- 「日本語支援アイデア集」(平成 23 年 3 月)の周知と普及のための研修を実施し、活用の促進を図った。



※文部科学省調査(対象は公立の小学校・中学校・高校) H23 は調査なし

〔福祉教育〕

- 福祉・ボランティア教育に取り組む小・中学校の割合は、現在調査中の大阪府平成 23 年度教育課程実施状況調査の結果集計後、記載。

【参考資料】(小学校：平成 20 年度 90%→平成 21 年度 92%→平成 22 年度 88%)  
 (中学校：平成 20 年度 86%→平成 21 年度 80%→平成 22 年度 82%)

【課題及び対応】

- いじめの認知件数は減少しているが、ネットでのいじめや誹謗中傷などに対する取組みを進める必要がある。  
 高校においては、スクールカウンセラーと連携して校内の支援教育や教育相談体制の充実を図り、中退の未然防止とあわせて、引き続き中高連携、人間関係づくり、基礎学力の充実を一層進める必要がある。
- 障がいのある児童・生徒への差別事象が生起する中、すべての学校での障がい者理解教育の充実に向け、より、学校現場のニーズに応じた研修会の実施や指導資料集の活用の促進に努める必要がある。
- 人権教育のための教材集・資料や在日外国人教育推進のために作成した教材・資料等の有効活用を引き続き促進させる必要がある。
- 近年、日本語指導が必要な児童生徒が増加及び散在化しており、受入体制の整備及び支援を引き続き充実させる必要がある。
- 福祉教育については、総合的な学習の時間や特別活動等を通じて、体験学習などの充実に取り組むとともに、各教科、道徳との関連を整理し、計画的、発展的に指導を行う必要がある。

【主な取組み（平成23年度）】

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H23 年度実績	進捗 状況	H23 年度実施事業		
① 人権教育の推進	人権教育プログラムに基づいた人権教育の推進	推進 (H25年度)	人権教育プログラム(素案)の作成	国事業を活用しモデル校等を指定 3地域、5校	○	(新) 研究学校等指定事業  (継) 人権教育フォーラムの開催	国事業を活用しモデル校等を指定し人権教育の取組みに関する研究を行った。 モデル校等の実践発表を含む人権教育推進に関するフォーラムを実施した(平成24年2月実施、502名参加)。	⑳3,457 千円【公】 ㉑—
	教材集・資料を活用した人権教育の充実	充実 (H25年度)	—	人権教育教材集・資料「教員用手引き」を作成・配付  研修1回実施	○	(継) ワーキング会議等の開催と人権教育教材集・資料の作成・配付	人権教育教材集・資料「教員用手引き」を作成し、府内小中学校及び支援学校に配付した。 府教育センターと連携し教材集・資料活用のための研修を実施した(平成23年12月実施、82名参加)。	㉒— ㉓—

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H23 年度実績	進捗 状況	H23 年度実施事業		
②障がい者理解教育の推進	障がい者理解教育の実施	全小・中・高校の全学級 (H22年度)	小中：100% 高校：84%	小中：100% 高校：100%	◎	(継)福祉教育指導資料集『ぬくもり』の活用	研修や会議等の場で、障がい者理解教育の進め方や実践事例を掲載した福祉教育指導資料集『ぬくもり』の、小・中学校での活用を啓発した。	②③ —
	障がい者理解教育の指導計画の作成	全小・中・高校 (H25年度)	小中：100% 高校：—	小中：100% 高校：94.9%	◎		②③ —	
	小・中・高校合同研修会の実施	実施 (H21年度)	—	1回実施	◎	(継)障がい者理解教育研修会の開催	教職員の障がいに関する理解や認識を深め、学校の効果的な実践を広く共有するため、実践発表、講演を実施した。 ・指導主事、小・中・高の教職員の参加294名	②③ —
③国際理解教育の推進	外国語活動の実施・充実	全小学校 (H23年度)	98.8%	100%	◎	(新)使える英語プロジェクト事業  (継)担当指導主事会の開催	義務教育終了段階で自分の考えや意見を英語で正確に伝えることができる生徒を育成するために「使える英語プロジェクト事業」を実施。 小学校段階でコミュニケーション能力の素地を育てることを目標に、実践研究校101校を指定し、小学校5,6年生用の実践プログラムを開発。 また、市町村教育委員会における外国語活動担当指導主事の連絡会の開催や取組状況の共有、学識経験者を招聘しての研修を実施した。(151校参加)	②③74,024千円【単】 (大阪教育ゆめ基金)  ② —



項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H23 年度実績	進捗 状況	H23 年度実施事業		
③国際理 解教育の 推進	日本語指導対応加 配教員の配置	配置 (H21年度)	53名 (45校)	65名 (51校)	○	(継)日本語教育 学校支援事業  (継)帰国・渡日 児童生徒学校生 活サポート事業	日本語指導を必要とする帰国・渡 日生徒が在籍する府立高等学校に対 し、教育サポーター、専門員等を派 遣した。また、「教科学習のための指 導資料」を作成し、帰国・渡日生徒 等の学力向上を図るとともに、進路 情報等の提供を行った。  日本語指導を必要とする帰国・渡 日児童生徒やその保護者等を対象に 市町村との連携のもと、多言語によ る進路ガイダンス等を実施するとと もに、ホームページを活用して8言語 による学校での生活や進路情報を提 供した。 ・進路ガイダンス 7地区10回実施	⑳10,322 千円【公】 ㉑11,609 千円【公】  ㉒1,772 千円【単】 ㉓1,772 千円【単】
	教育サポーター登 録者数の確保	毎年100名 確保 (H22年度)	255名	365名	◎			
	教育サポーター派 遣回数増加	増加 (H25年度)	23校 (695回)	28校 (543回)	○			
	市町村における教 育サポーター活用 者数の増加	増加 (H25年度)	47名	(注1) —	○			
	進路サポート情報 等の言語数の拡充	拡充 (H25年度)	6言語	8言語	○			
	専門員の派遣	派遣 (H21年度)	—	12校	○			
	指導資料等の作 成・活用	作成・活用 (H21年度)	—	活用促進	○			
④福祉教 育の推進	福祉教育の実施	全小・中学校 (H23年度)	小：90% 中：86%	小：集計中 中：集計中	—	(継)福祉教育指 導資料集『ぬく もり』の活用	研修や会議等の場で、障がい者理 解教育の進め方や実践事例を掲載し た福祉教育指導資料集『ぬくもり』 の、小・中学校での活用を啓発した。	㉔ — ㉕ —
	体験活動に重点を おいた福祉教育の 推進	全府立高校 (H21年度)	80%	89.9%	◎	(継)体験的な活 動による福祉教 育の推進	総合的な学習の時間や特別活動を 通じて、福祉施設へのボランティア 体験を広げ、生徒の福祉マインドの 醸成に努めた。	㉖ — ㉗ —

(注1) 市町村へ派遣する事業については、国事業のスキーム変更のため、平成22年度をもって廃止した。

基本方針9 子どもたちの豊かな心をはぐくみます

重点項目31 読書活動の推進

【目標】

- ・読書が好きな子どもの割合を全国平均以上にする。
- ・全小・中学校において全校一斉の読書活動を実施する。

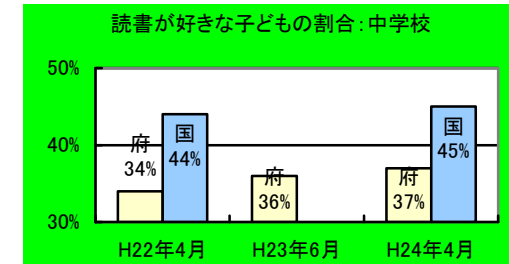
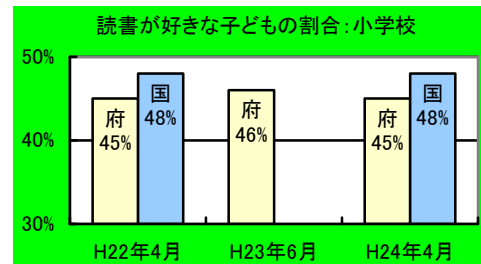
【成果（平成23年度末時点）】

○ 読書が好きな子どもの割合は中学校では若干増加傾向にある。しかし、全国平均との差は中学校で縮まったものの、依然として小学校・中学校とも全国平均下回っている。

◆ 読書が好きな子どもの割合

	H22年4月	H23年6月	H24年4月
小学校 (全国)	45% (48%)	46% (—)	45% (48%)
中学校 (全国)	34% (44%)	36% (—)	37% (45%)

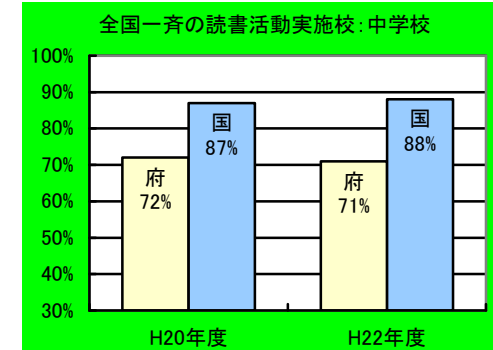
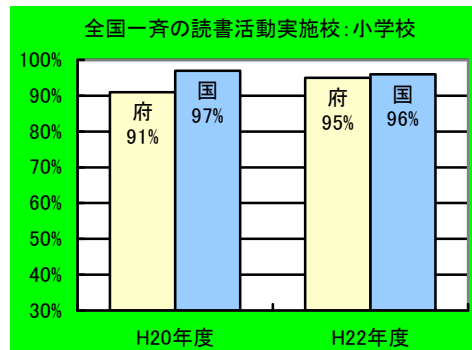
H22・H24 国調査(政令市を含む抽出調査)  
H23 府調査(政令市を除く府域41市町村での悉皆調査)



◆ 全校一斉の読書活動を実施した学校の割合

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
小学校 (全国)	91% (97%)	—	95% (96%)	—
中学校 (全国)	72% (87%)	—	71% (88%)	—

※文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」  
本調査は平成20年度以降、隔年実施となったことから、平成21,23年度のデータはなし。



○ 第2次大阪府子ども読書活動推進計画の進捗管理

- ・第2次大阪府子ども読書活動推進計画実行委員会の開催 2回（7月、2月）  
（庁内の関係各課で組織し、第2次大阪府子ども読書活動推進計画の具体的方策の進捗管理及び自己評価）
- ・大阪府子ども読書活動推進連絡協議会の開催 2回（9月、3月）  
（学校教育・社会教育・家庭教育・公立図書館等の関係者で組織し、第2次大阪府子ども読書活動推進計画の具体的方策の進め方、実施スケジュール等の点検評価及び次年度の取組みについて助言）

○ 府立中央図書館の主な取組み（平成23年度）

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「子どもの読書支援センター」「児童文化の総合資料センター」としての機能を拡充</li> <li>・ 講座開催「紹介と解説 2010年に出版された子どもの本」<br/>過去1年間に出版された子どもの本から、絵本、読み物、知識の3ジャンルに分けて解説 4月22～24日 参加者数：261人</li> <li>・ 1周年記念講演会「講演と弦楽四重奏で楽しむ宮沢賢治ファンタジー・ワールド」<br/>11月19日 参加者数：281人</li> <li>・ 資料展示&amp;ギャラリートーク<br/>「掌のなかの芸術 豆本 いま むかし」<br/>「輝く街頭紙芝居 一街角のドラマー」<br/>「すきとほつた ほんたうのたべもの - 『宮沢賢治と子どもの本』展 -」</li> <li>・ 子どもの読書活動推進のための支援員派遣事業<br/>府内36団体へ子どもの読書活動についての専門家を派遣<br/>受講者数：のべ1,319人</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市町村立図書館職員及び司書教諭・学校図書館担当職員の合同研修<br/>「なんでも学べる図書館づくりー子どもの好奇心が本棚をつくるー」<br/>（7月26日）参加者数：91人<br/>「学校図書館の2つの機能：公共図書館との連携の広がり」<br/>（8月18日）参加者数：81人<br/>「楽しい図書館づくりー小学生はもちろん、中学生・高校生にも絵本を」<br/>（8月25日）参加者数：84人<br/>「熊取町における学校図書館の整備、充実について」<br/>（9月7日）参加者数：68人<br/>特別講座「絵本がともだちー子どもの成長と絵本ー」<br/>（1月11日）参加者数：43人</li> <li>・ 朝の読書活動や調べ学習支援のための「特別貸出用図書セット」の貸出<br/>低・中・高学年朝読用、調べ学習用（人物・伝記・環境・平和・世界等）33セット</li> <li>・ 中央図書館ホームページに「国際児童文学館のページ」「学校支援のページ」による広報、情報提供の充実</li> </ul> |
|---|--|

【課題及び対応】

- 読書が好きな子どもの割合は、若干増加傾向にあるものの全国平均より低い状況であることから、「読んでみたいと思う本が、子どもの周りにある」「本を紹介する人が、子どもの周りにいる」という観点から読書環境づくりを一層進め、子どもの自主的な読書活動を推進する必要がある。
- 公立図書館と学校図書館の連携や学校図書館へのボランティアの活用を一層進め、子どもたちの学校図書館や公立図書館の活用を促進する必要がある。

【主な取組み（平成23年度）】

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H23 年度実績	進捗 状況	H23 年度実施事業		
①子どもの 発達段階に 応じた読書 活動の推進	乳幼児健診等で 保護者と乳幼児 に対して絵本の 読み聞かせや紹 介・講話等の実 施	全市町村で 実施 (H21年度)	95%	98%	◎	(継)子ども の読書推進 活動支援事 業	乳幼児健診において保護者への啓発を進めるために、読書ボランティアに対して読み聞かせなどのスキルアップのための講師を派遣した。 (3市に派遣)	⑳1,445 千円 ㉑1,666 千円 子どもの読書 推進活動支援 事業費の一部 【単】
	「子ども読書の 日」にあわせた 読書イベントの 実施	全公立図書 館・公民館等 で実施 (H25年度)	28%	29%	★ (注1)	(継)市町村 に対する啓 発や要望	「子ども読書の日」に関する取組予定状況調査（年1回）の際に、イベント実施の啓発や大阪府図書館司書セミナー（9月～11月）でのイベント実施への要望等を実施した。	⑳ — ㉑ —
	全校一斉の読書 活動の実施	全小・中学校 (H25年度)	小：91% 中：72%	小：— 中：—	★ (注2)	(継)学校図 書館担当指 導主事会	各市町村の図書館教育についての施策や学校図書館での取組みについて情報交換を行い、府内の学校図書館教育の充実に資する（2月、参加者：352人）。	⑳ — ㉑ —
	学校図書館の運 営援助に地域人 材を活用 (書架の整理等)	全小・中学校 (H25年度)	小：9% 中：4%	小：17% 中：18%	★ (注3)	(継)面展台 製作教室	学校教職員や図書館職員また各地域ではなしボランティアの活動をしている人を対象に学校図書館で活用できる面展台（本の表紙が見えるように展示する台）製作教室を実施した（参加者：30人）。	⑳ — ㉑ —

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H23 年度実績	進捗 状況	H23 年度実施事業	
①子どもの 発達段階に 応じた読書 活動の推進	公立図書館との 連携(本の貸出、 連絡会等)	全小・中学校 (H25年度)	小：80% 中：49%	小：84% 中：58%	○	(継)中央図書館 における小学 校・中学校・高 等学校「活用 力・探求力をは ぐくむ」授業づ くり研修の実施	図書館における資料の活用方法の研 修及び資料を活用した教材づくりを実 施した(8月(2日間)、参加者:延べ 51人)。  ⑳ — ㉑ —
②読書活動 に結びつく 実体験(自 然体験等) の推進	公立図書館と連 携した事業の実 施(共催事業・ 連絡会等)	全市町村立 社会教育施設 (H25年度)	10%	13%	★ (注4)	(継)市町村での 展開に向けたモ デル事業	府立中央図書館と府立少年自然の家 の連携事業を実施した(絵本の広場、 絵本づくり等)(3月、参加者:32人)。  ⑳ — ㉑ —

(注1) 公立図書館のイベント実施割合は H23 年度で 95%であるものの、公民館等の実施割合が 5%と極端に低いことが理由である。今後、市町村教育委員会や大阪府公民館振興協議会に対して、公民館での取組みの実績・内容を周知するなど働きかけていく。

(注2) 「学校図書館の現状に関する調査」(文部科学省)が隔年実施のため、今年度はデータを掲載していない。

(注3) ボランティアを活用している学校は、小学校で 71%、中学校で 31%あるものの、書架の整理等、学校図書館の運営援助に地域人材を活用するまでは至っていない。今後、第2次大阪府子ども読書活動推進計画に基づき、学校図書館の運営援助に地域人材を活用している事例を市町村教育委員会等に情報提供するなど、ボランティアの活用を促進していく。

(注4) 青少年教育施設では、読書活動に結びつく実体験(自然体験)活動を展開することは、子どもたちが読書の必要性和楽しみ方を新たに発見できる有効な方法であるという認識はあるものの、多くの施設で実施していない理由は、具体的な参考にすべき実践事例がほとんどないことであると思われる。今後、第2次大阪府子ども読書活動推進計画に基づき、引き続きモデル事業を行うとともに、同様の事業が各市町村でも展開されるよう大阪府青年の家等連絡協議会や市町村社会教育主管課長会議等での情報提供などにより働きかけていく。

【参考となる指標】 平成 22 年度文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」

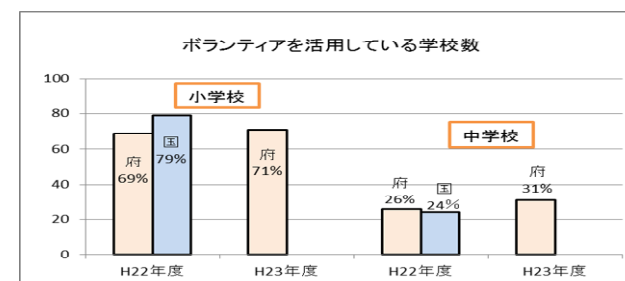
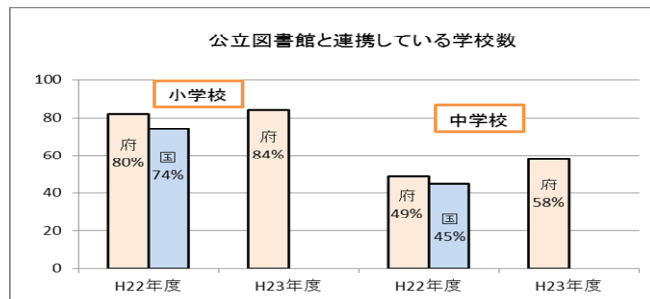
平成 23 年度は大阪府教育課程編成状況等調査(文部科学省調査が実施されなかったため、下記 2 項目を加えて調査)

◆公立図書館との連携を実施している学校数 (H23 年度)

- ・小学校 522/623 校 (84%)
- ・中学校 168/291 校 (58%)

◆ボランティアを活用している学校数 (H23 年度)

- ・小学校 441/623 校 (71%)
- ・中学校 90/291 校 (31%)



基本方針9 子どもたちの豊かな心をはぐくみます

重点項目32 社会全体での「こころ」をはぐくむ取組みの推進

【目標】

- ・「こころの再生」府民運動の認知度を向上させ、子どものいる世帯における認知度を30%にする。
- ・あいさつを交わせる社会づくりを推進し、小・中学生が地域の人にあいさつをする割合を100%にする。
- ・「全国学力・学習状況調査」における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的な回答率を全国平均以上にする。

【成果（平成23年度末時点）】

〔こころの再生府民運動〕

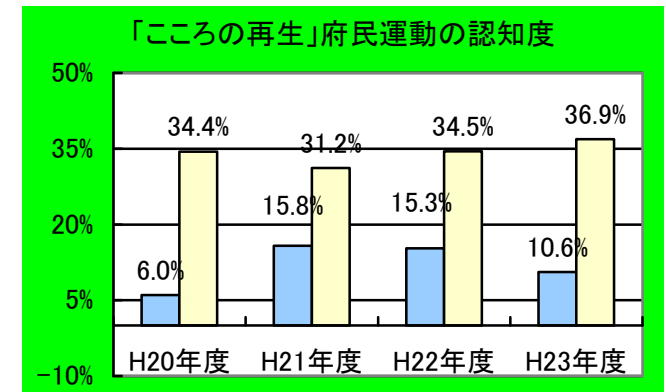
- 「こころの再生」府民運動の認知度については、調査方法の変更等の影響もあり（※）、「詳しく知っている」「ある程度知っている」の数値は前年度に比べて減少。

◆子どものいる世帯における「こころの再生」府民運動の認知度（「詳しく知っている」「ある程度知っている」）

H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
6.0%	15.8%	15.3%	10.6%

府民運動の認知度（上記に加え、「名前を聞いたことはある」を含む）

H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
34.4%	31.2%	34.5%	36.9%



※ 『大阪府部局長マニフェスト』の調査（民間調査会社委託調査、回答者数1,000名）において調査対象：『大阪府部局長マニフェスト』の調査回答者より中学生以下の子どもがいる回答者を抽出  
 実施日：平成24年3月9日から3月11日 回答者総数：236人

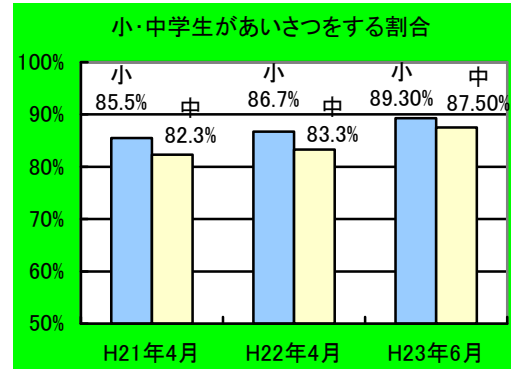
（平成21・22年は大阪府クイック・リサーチ「おおさかQネット」（対象：大阪府内在住の15歳以上の方 回答者約1,500人）を使用している。）

○ 地域の人にあいさつする児童・生徒の割合は若干減少。将来の夢や目標を持つ児童・生徒の割合は、中学校において若干高くなっているものの、全体として横ばい傾向にある。

◆ 小・中学生が地域の人にあいさつをする割合

	H22年4月	H23年6月	H24年4月
小学校	86.7%	89.3%	88.4%
中学校	83.3%	87.5%	86.5%

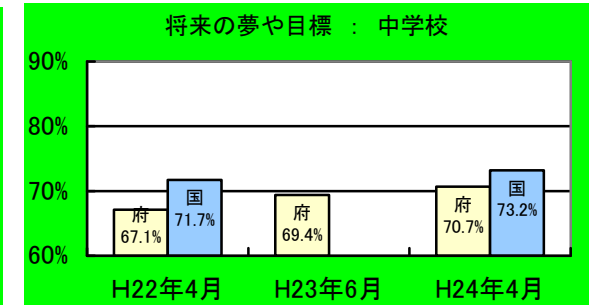
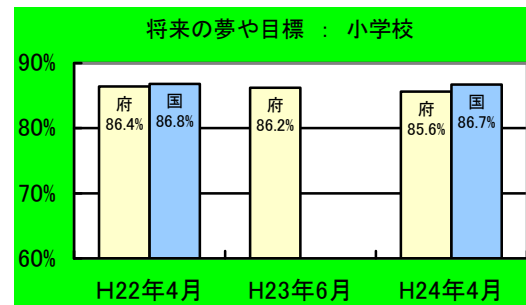
H22・H24 国調査(政令市を含む抽出調査)  
H23 府調査(政令市を除く府域41市町村での悉皆調査)



◆ 将来の夢や目標を持っていますか

	H22年4月	H23年6月	H24年4月
小学校 (全国)	86.4% (86.8%)	86.2% ( - )	85.6% (86.7%)
中学校 (全国)	67.1% (71.7%)	69.4% ( - )	70.7% (73.2%)

H22・H24 国調査(政令市を含む抽出調査)  
H23 府調査(政令市を除く府域41市町村での悉皆調査)



【課題及び対応】

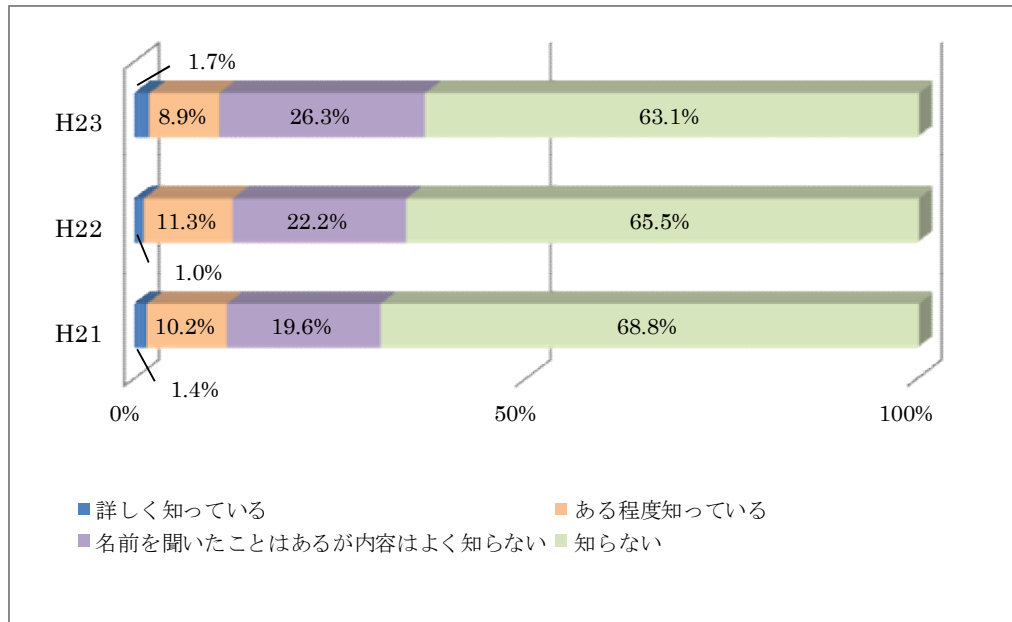
- 「こころの再生」府民運動の認知度が、「詳しく知っている」「ある程度知っている」がやや減少していることを踏まえ、府民一人ひとりの実践につなげるため、子どもを中心に学校・家庭・地域とつながる取組みを推進する必要がある。
- 学校、地域でのあいさつの実践を推進するため、のぼりや啓発用ティッシュの提供など、あいさつ運動の促進・支援を継続的に行う必要がある。

【主な取組み（平成23年度）】

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H23 年度実績	進捗 状況	H23 年度実施事業	
①「こころの再生」府民運動の推進	全市町村主体の「あいさつキャラバン隊」の活動	活動 (H21年度)	9市町村	15市町村	○	(継)「こころの再生」府民運動の推進  大人も子どもも今一度、「生命を大切にす る」「思いやる」「感謝する」「努力する」「ル ールやマナーを守る」など、忘れてはならな い大切な「こころ」を見つめ直し、毎日の暮 らしの中で一人ひとりできることからはじ めてみることを呼びかけた。 ○広報・啓発活動 ・ホームページの更新、メールマガジンの発 行、ポスター・リーフレットによる広報・ 啓発 ・「こころの再生」通信の発行（年3回） ・イメージソングを活用したコーラスレッ スの開催(14校園) ○あいさつ運動の推進 ・学校、地域でのあいさつ運動の促進・支 援(幼稚園、小中高等学校等へののぼりの配 付) ○「こころの再生」府民運動、府立学校事 業の推進(活動費の助成、表彰式、活動内 容の広報) ○イベントの開催(「こころの再生」フェ スティバル2011年11月) ○民間企業等と連携した取組み ・大阪「こころの再生」パートナー協 定制度の推進(148社・団体) ・企業・府主催イベントとの共催・参 加(りそなキッズマナーアカデミーなど)	②34,277 千円【単】  ②4,047 千円【単】
	各学校での「あいさつキッズ」の実施	小学校で実施 (H24年度)	2校	60校	○		
	朝のあいさつ運動の実施	全小学校 (H24年度)	—	623/623校	◎		
	子どもの心を豊かにする教育活動の実施	全府立学校 (H21年度)	— (但し、各学校から報告のあった数は40校)	167/167校	◎		
②子どもたちの自主的・主体的な活動の創造や充実	重点項目 34①参照						
③トップアスリートとのふれあいの推進	重点項目 13⑤参照						



【参考となる指標】「こころの再生」府民運動の認知度



【調査概要】

○ 『大阪府部局長マニフェスト』の調査（民間調査会社委託調査、回答者数 1,000 名）において調査

対 象：『大阪府部局長マニフェスト』の調査」回答者より中学生以下の子どもがいる回答者を抽出

実施日：平成 24 年 3 月 9 日から 3 月 11 日 回答者総数：236 人

※平成 21・22 年は大阪府クイック・リサーチ「おおさか Q ネット」（対象：大阪府内在住の 15 歳以上の方 回答者約 1,500 人）を使用している。

基本方針9 子どもたちの豊かな心をはぐくみます

重点項目33 歴史・文化等に関する教育の充実

【目標】

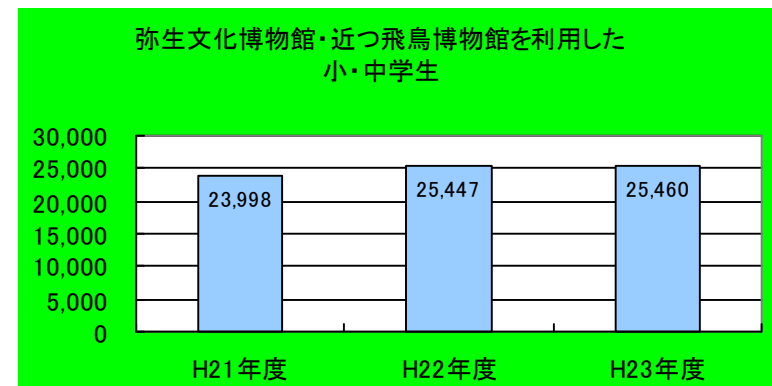
- ・大阪の有する多様な文化財を、地域に根ざした貴重な教育資源としてより積極的に活用することにより、郷土への誇りや大阪の伝統、文化を尊重する心をはぐくみ、子どものアイデンティティ形成等にも積極的に寄与する。  
(H19：弥生文化博物館・近つ飛鳥博物館を利用した小・中学生合計 26,427 人  
→ H25：合計3万人以上をめざす)
- ・大阪を代表する文化財である百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に向けた取組みを進める。
- ・文化・芸術を通して子どもたちの心豊かな人格形成を図る。

【成果（平成23年度末時点）】

○ 弥生文化博物館・近つ飛鳥博物館を利用した小・中学生の数は、入館者数で見ると前年と横ばいだが、出前授業の利用者が大きく増加している。

◆ 弥生文化博物館・近つ飛鳥博物館を利用した小・中学生

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
入館者数	26,833人	23,998人	25,447人	25,460人
出前授業	2,335人	3,196人	3,163人	4,838人



※府教育委員会調べ

【課題及び対応】

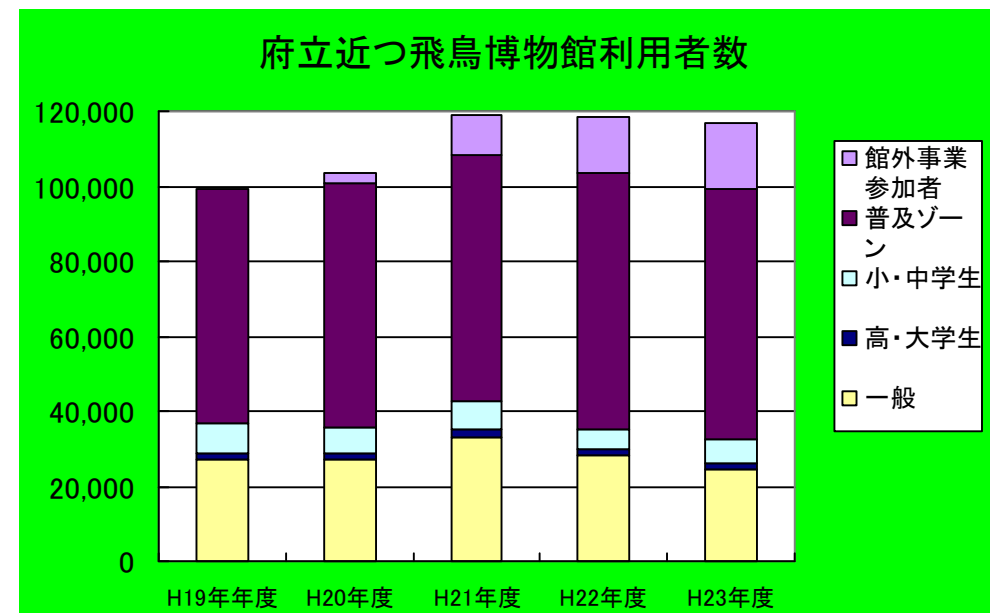
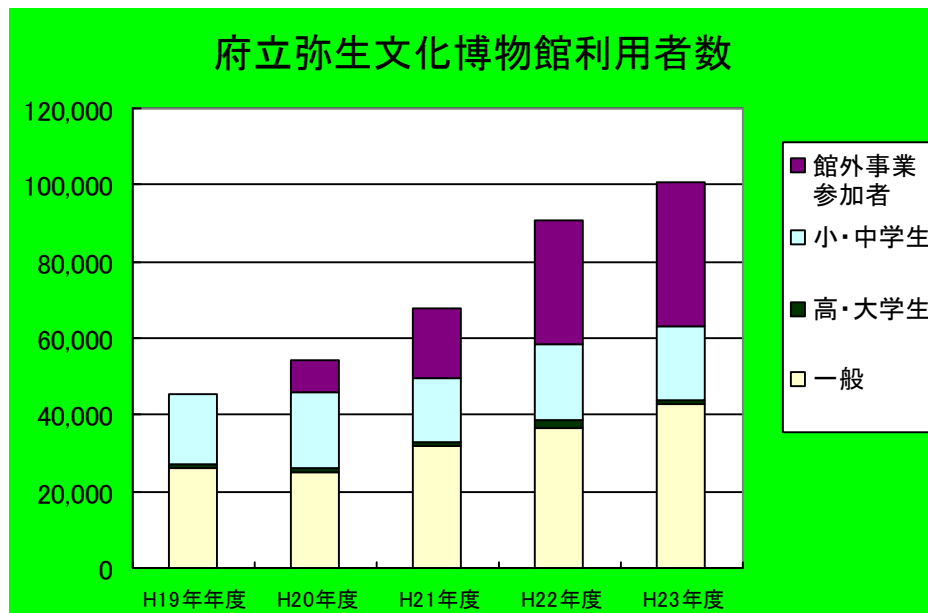
- 府内市町村教育委員会を通じて、小・中学校への利用案内配布を徹底し、学校団体誘致のためのPRを強化するなど、児童生徒の来館を積極的に誘致し、大阪の歴史・文化等にふれる機会を拡大する必要がある。
- 平成20年度から取組みを進めている小中学校への出前授業については、平成23年度には、108回、4,838人の利用者を得ており、今後も入館者数と合わせて利用者の拡大を図っていく。

【主な取組み（平成23年度）】

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H23 年度実績	進捗 状況	H23 年度実施事業		
①文化財と 府立博物館 の有効活用	出前授業の 倍増	倍増 (35回→70回) (H22年度)	35回	108回	◎	(継)府立博物館等 の活用	<p>弥生文化博物館や近つ飛鳥博物館等で以下の取組みを行った。</p> <p>①体験学習や実物にふれる等カリキュラムに即したメニューを提案し、出前授業のPR強化を行った。</p> <p>②府立高校の総合選択科目等において連携を強化した。</p> <p>③小・中学校の校外事業の受入れを行った。</p> <p>④小・中学校の教員を対象とした研修の実施及び受入れを行った。</p>	<p>②③ —</p> <p>②④ —</p>
②世界文化 遺産の登録 に向けた取 組みの推進	百舌鳥・古 市古墳群の 世界文化遺 産登録に向 けた取組み の推進	推進 (H25年度)	国の世界遺産特別委員会において、「世界遺産暫定一覧表記載が適当」との判断及び課題の提示	堺市、羽曳野市、藤井寺市と一体となって、平成23年5月に「世界文化遺産登録」推進本部会議を立ち上げ、ユネスコへ提出する推薦書作成などの取組みを実施	○	(継)百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録有識者会議の開催	<p>ユネスコ世界遺産暫定一覧表記載を受け、世界遺産登録の早期実現に向けた諸課題の検討のため、学識経験者からなる有識者会議を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有識者会議 1回開催</li> <li>・専門部会 2回開催</li> </ul>	<p>②③推進本部会議事業（府負担分268千円）【単】</p> <p>②合同会議事業（同198千円）【単】</p>
						(継)百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議の開催	<p>大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市により組織した推進本部会議において、世界文化遺産登録に向けた方針や事業執行について協議・決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進本部会議 1回開催</li> <li>・幹事会 1回開催</li> <li>・学術検討・条件整備部会 3回開催</li> <li>・魅力創出・情報発信部会 4回開催</li> </ul>	<p>②③推進本部会議事業（府負担分10,347千円）【単】</p> <p>②合同会議事業（同810千円）【単】</p>

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H23 年度実績	進捗 状況	H23 年度実施事業	
③文化・芸術 にふれる機 会の拡大	文化・芸術 にふれる機 会の拡大	拡大 (H25 年度)	文楽(大阪本公演)の観客数	71,475 人	○	(継)重要無形文化財「人形浄瑠璃文楽」伝承運営補助事業	国指定重要無形文化財であり、世界遺産でもある「人形浄瑠璃文楽」の保存・伝承のため、財団法人文楽協会に対して助成した。 ・契約技芸員(大夫24名・三味線19名・人形38名)
			75,795 人				
			文楽(青少年向けの公演)の観客数	19,945 人			
			17,561 人				②20,702 千円【単】 ②20,702 千円【単】

【参考となる指標】



※府教育委員会調べ

※普及ゾーンは図書閲覧、風土記の丘出土実物資料をさわられるコーナー、ギャラリー等、自主学習に活用していただく、展示以外のスペース